

史跡探訪レポート

平成二十八年年度

別府史談会市内史跡探訪記録

矢 島 嗣 久

2 別府市公会堂

は大坂万博の「太陽の塔」でも有名。万博の大屋根の高さ、三〇m、太陽の塔の高さ七〇m。別府の「緑の太陽」のタイル職人は武蔵次夫氏。金沢市出身。別府市在住。

別府市公会堂前、正面石段にて集合写真撮影。

二班に分かれて別府市公会堂館内を見学。

平成二六年一〇月に着工した「中央公民館・市民会館」の改修工事が完了した。「中央公民館・市民会館」は、建設当時（昭和三年）の姿に復元したことに伴い、二〇一六年（平成二八年）四月一日から「別府市公会堂」としてリニューアルオープンしました。

新しい「別府市公会堂」は、耐震補強による安全性の確保、バリアフリー化による利便性の向上、正面階段などの復元による文化財としての保存活用等、安心・便利な施設として生まれ変わりました。

別府市公会堂のあゆみと呼称変更、別府市公会堂は、神澤初代別府市長の発案によりモダニズム建築の若手の旗手、吉田鉄郎設計のもと、昭和三年（一九二八年）に建設されました。昭和四二年からの改修工事でシンボル

コース、山の手、別府市公会堂コース

日 時、平成二十八年八月二十一日

ガイドは別府八湯、語り部の会、数名。

JR別府駅西口、午前八時集合

コース順路、JR別府駅西口

1 岡本太郎陶板壁画

岡本太郎陶板壁画説明、信楽焼^{しがやま}、陶板タイル。

絵画、彫刻家。昭和四四年（一九六九年）大坂万博

（昭和四五年）の前年に建築。大きさ 一七m×三・五m。

岡本太郎、明治四四年（一九一一年）二月二六日生まれ。

平成八年（一九九六年）一月七日死去。享年八六歳。父、

岡本一平、マンガ家、母かの子、歌人、作家。岡本太郎

であった正面階段が撤去されましたが、今回の改修工事で再度取り付けられました。建設当時の姿に復元したことに伴い、建物全体の呼称も建設当時の「別府市公会堂」としました。内部は、一階部分を中央公民館、二・三階部分を市民会館として利用します。なお、耐震補強を行い、エレベーターも設置しました。

「市報べっぶ」の記事を参考。

3 料亭「もみや」

玄関前、見学説明、大女将^{おおおかみ}吉田愛さんが女手一人で建築、経営していた。昭和二九年（一九五四年）の創業。

現在、娘さんが若女将。吉田愛さんは数年前に死去。

平成九年（一九九七年）一月二五日、二六日。当時、橋本龍太郎首相、金泳三（きむ・よんさむ）韓国大統領、井上信幸別府市長が会談した。二〇一〇年一〇月、星野仙一元監督等有名人も多く訪れていて、色紙を残している。有名人も多く訪れていて、色紙を残している。旅館内に部二敗忍だかい三が収集した小さな美術館がある。

4 大塚博堂生誕の地

旅館もみやの西側には大塚博堂生誕の地がある。ニューミュージック、シンガーソングライター、J・R別府駅前通には喫茶「博堂村」北浜一丁目一〇がある。

5 九日天温泉

別府市社会福祉会館南側に駐車場がある。戦時中は陸軍病院だった。社会福祉会館の玄関の上には青柳長市（日出町の左官）のこて絵がある。

6 別府野球場跡

現アリーナ（屋内体育館）前を見学。平成二〇年（二〇〇八年）大分国体（二巡目）の体操、バレーボールの競技場となった。アリーナとは周囲を囲った競技場のことをいう。

7 高橋記念館、聴潮閣前見学

佐藤溪美術館だった。現在、閉館されている。

8 思い出公園、忠魂碑、報国丸のマスト、野口原五輪塔群

忠魂碑、別府市出身、陸海軍兵士の戦病死者の慰霊碑である。

報国丸のマスト、日口戦争の際、広瀬武夫中佐が一次旅順港閉塞船として乗船していた「報国丸」のマストである。広瀬中佐が戦死したのは第二次閉塞船福井丸である。

野口原五輪塔群、別府公園の東南側に発見された五輪塔群をここに移設したものである。

9 別府公園、南ゲートから東正面ゲートまで見学

進駐軍キャンプ、一〇年間、当時、アメリカの兵士が一〇〇〇人ほど居住していた。

その後、二〇年間は陸上自衛隊駐屯地となり、別府市の扇山及び湯布院に移転した後、昭和天皇御在位五〇年記念公園の指定を受けて整備された。それは市民活動家の故河村建一氏の功績が大きい。

油屋熊八翁記念碑、別府公園内西側、球形等ミニメント、以前、Bコンの西側に設置されていたが、平成七年（一九九五年）、別府コンベンション・センターの建設のため、別府公園内の西側に移設された。

チッカマウガ・ツリー、アメリカ進駐軍が駐屯していたとき、クリスマスツリーとしてヒノキの木が利用されていた。その後、ツリーが大きくなつて取り残されている。もみの木ではなく、ヒノキである。

別府公園、陸上自衛隊の撤退後、昭和天皇ご在位五十年記念公園の指定を受け、その後、別府公園として整備され別府市民に親しまれている。

10 野口病院旧館

野口病院旧館前にて説明。大正一一年（一九二二年）に完成、北九州市若松の石炭商、佐藤慶太郎が別府の野口病院及び医療機器も併せて寄贈した。二五万円。野口雄三郎、北九州市若松病院長、佐藤慶太郎の寄贈により別府で野口病院を開業、甲状線（バセドウ氏病）の権威。現在は四代目の病院長。平成二五年（二〇一三年）五月より新病院にて診療開始。新住所、別府市青山町七―五二、別府公園と別府アリーナとの中間点。

11 終了後見学会は解散。